



下水道ビジョンの策定について



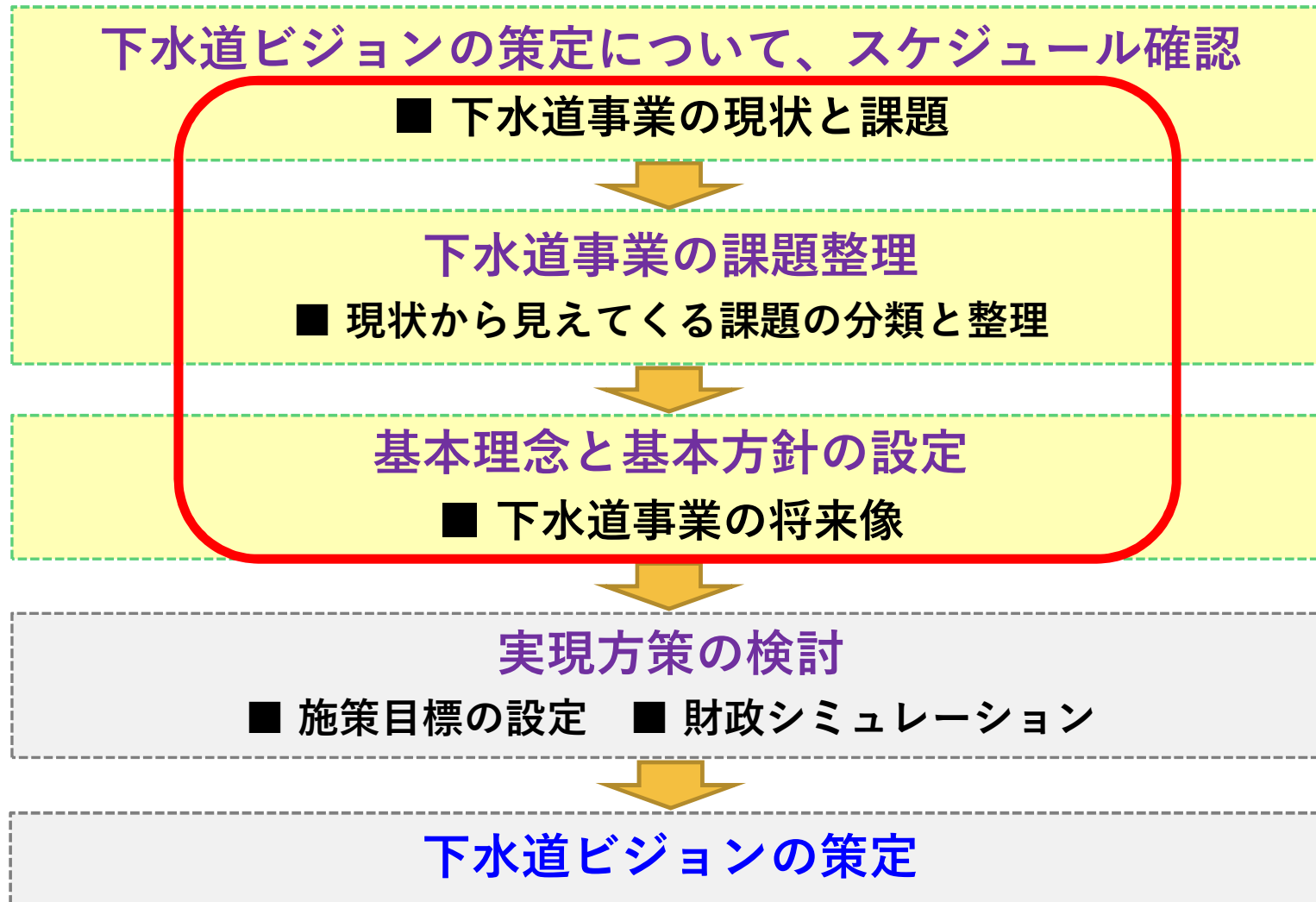
湯沢市 建設部 上下水道課



第2回懇談会の主な意見、提案

- 現状の運転監視方法では、災害への備えが弱いように思えるので、遠方監視装置等の情報を迅速に把握できるようにするべきではないか。
 - 施設の更新については、後の世代に負担を残さないよう考える必要がある他、耐用年数を半分過ぎている施設は、長寿命化を図るべきではないか。
 - 下水道技術職員は、地元の高校生にアプローチしたり、働ける人は再雇用をするなど、必要な人数を確保していただきたい。
 - 施設使用率が低くてもコストはかかるため、個人設置浄化槽の整備を進めるなど、集合処理から個別処理への転換も考えるべきではないか。
 - 市町村設置浄化槽は、個人設置浄化槽と一本の計画にした方が不公平感がないのではないか。
 - 使用率や人口減少についてシミュレーションをしながら、最小費用で最大効果を上げる方法はどれか、たたき台を示してもらい、市民の考えを市政に反映させるべきではないか。
- ⇒ 以上のような意見をふまえて、下水道ビジョン作成に取り組む

下水道ビジョン策定の進め方について








(1) 下水道事業の現状と課題

経営比較分析表を活用した現状分析①

令和3年度決算 経営比較分析表 類似団体区分(総務省HP)にて、湯沢市下水道事業の主な経営指標を、**全国平均**、**類型区分平均**と比較・分析しながら、「強み」と「弱み」として相対評価した。

【比較対象となる類型区分】

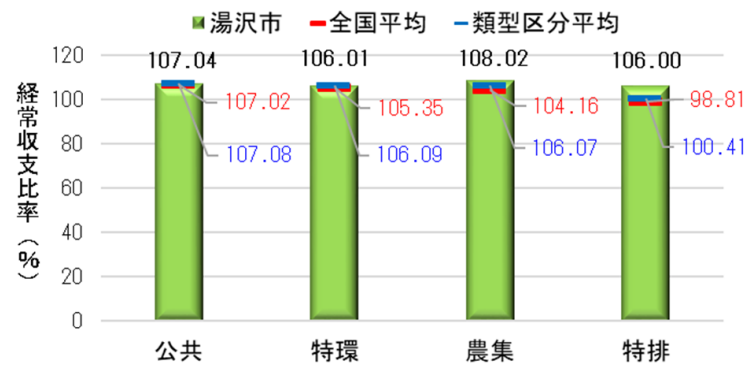
【評価結果の区分  : 普通  : 弱み】

事業名称	処理区域内人口区分	人口密度	供用開始後年数別	類型区分	団体数	経営の健全性・効率性についての主な経営指標	湯沢市
公共下水道	3万人未満	25人/ha以上	15年以上	Cc2	170	①経常収支比率 【収入÷費用で示す率】	
特定環境保全公共下水道	—	—	15年以上	D2	545	②経費回収率 【汚水処理原価と使用料収入等の率】	
農業集落排水	—	—	15年以上	F2	648	③汚水処理原価 【1m ³ 当りの汚水処理に要する費用】	
特定地域生活排水処理(浄化槽)	—	—	15年以上	K2	214	④施設利用率 【水量に基づく整備施設の利用率】	
						⑤水洗化率 【下水道を利用している人口の率】	

(1) 下水道事業の現状と課題

経営比較分析表を活用した現状分析②

① 経常収支比率(%)



【指標の意味】

使用料収入や一般会計繰入金等の収益で、維持管理費や支払い利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標。

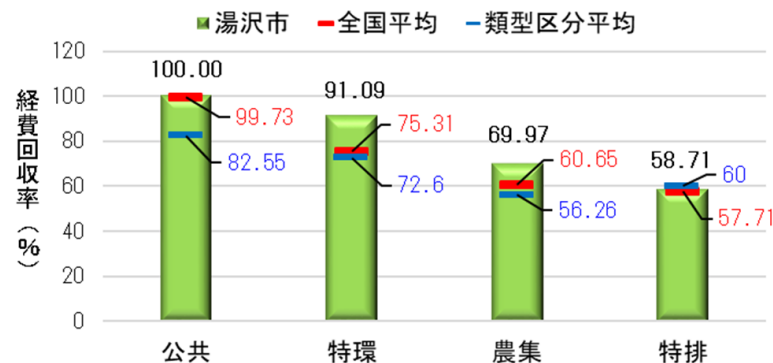
【分析】

経常収支比率は100%を上回っており、赤字は生じていない現状である。

全国平均・類型区分平均とも同等程度である。



② 経費回収率(%)



【指標の意味】

使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標。使用料水準等を評価することが可能。

【分析】

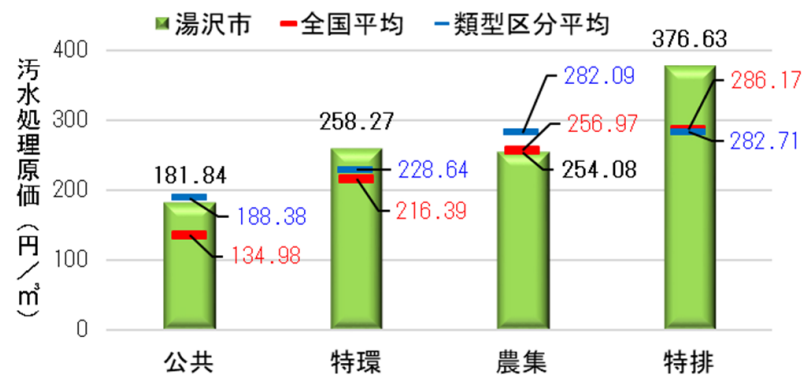
特排以外は全国平均・類型区分平均を上回っている。しかし、公共以外は使用料単価が汚水処理原価を下回り、一般会計繰入金等に依存している状態である。



(1) 下水道事業の現状と課題

経営比較分析表を活用した現状分析③

③ 汚水処理原価(円)



【指標の意味】

有収水量(※)1m³あたりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費・汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標。

※下水処理場で処理した全汚水量のうち、下水道使用料徴収の対象となる水量

【分析】

公共は類型区分平均、農集は全国平均と同等程度であるが、特環と特排は全国平均・類型区分平均を上回っている現状である。



④ 施設利用率(%)



【指標の意味】

施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標。

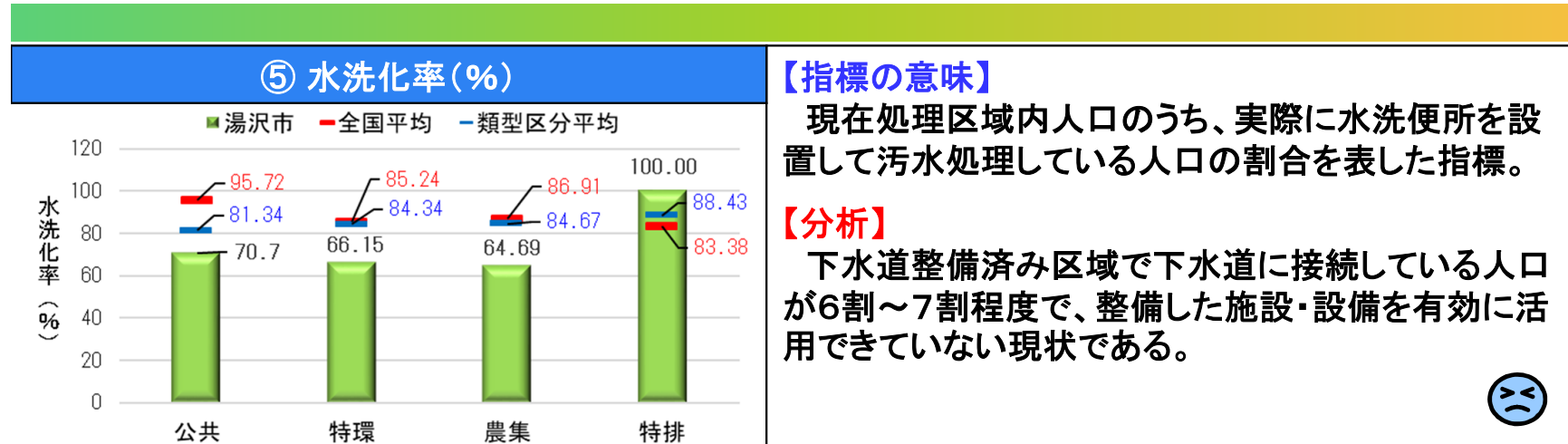
【分析】

施設利用率は4割～5割程度で、施設を有効に活用できていない現状である。



(1) 下水道事業の現状と課題

経営比較分析表を活用した現状分析④



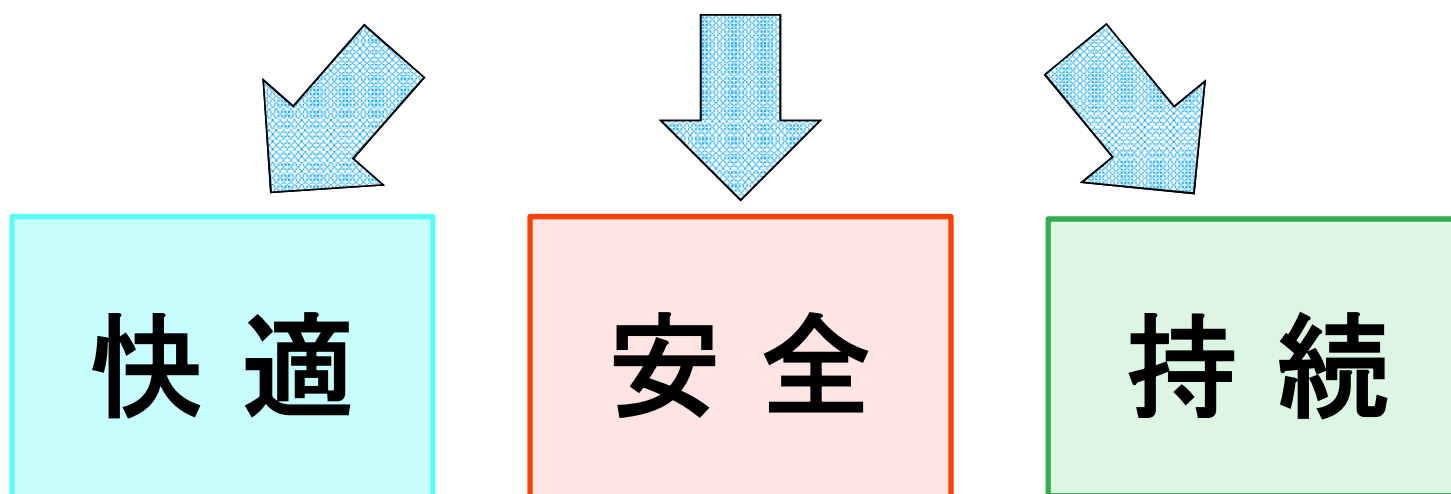
【経営比較分析表を活用した現状分析のまとめ】

- ① 維持管理費等の支出額を使用料収入で賄えず、一般会計繰入金等に依存している。
- ② 汚水処理に要する費用が、全国平均・類型区分平均を上回る施設がある。
- ③ 施設利用率・水洗化率が低く、整備した処理施設を有効に活用できていない。

(2) 下水道事業の課題整理

現状から見えてくる課題の分類と整理①

前回提示した課題に加え、上下水道事業懇談会委員の皆様からのご意見、経営比較分析表を活用した現状分析をまとめ、湯沢市下水道事業の課題を、「**快適**」「**安全**」「**持続**」のキーワードに分類します。



(2) 下水道事業の課題整理

現状から見えてくる課題の分類と整理①

【快適】

- ① きれいな水環境を守るため、施設や浄化槽の適正な維持管理が必要である。
- ② 社会状況の変化に対応する取り組み（SDGs連携、脱炭素社会、DX推進）が求められている。
- ③ 清潔で快適な生活環境を創出するため、市民への啓発活動により水洗化率の向上に取り組む必要がある。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

(2) 下水道事業の課題整理

現状から見えてくる課題の分類と整理②

【安全】

- ① 計画的な施設等の更新と修繕が必要である。
- ② 様々な自然災害に備えた施設等の強靱化・機能向上が必要である。
- ③ 災害時や緊急時の早期復旧対応のため、危機管理体制の強化や、相互協力体制の構築が必要である。
- ④ 管路の計画的な点検・調査により、重大な事故を未然に防ぐことが必要である。



出典：国土交通省
下水道部資料

(2) 下水道事業の課題整理

現状から見えてくる課題の分類と整理③

【持続】

- ① 人口減少を見据えた健全な経営が求められている。
- ② 施設利用率等を考慮した、施設規模の検討が必要である。
- ③ 現在の整備計画や整備方法を見直し、経営効率化を図る必要がある。
- ④ 下水道事業に携わる人材と執行体制の確保が必要である。



(3) 基本理念と基本方針の設定

～ 下水道事業の将来像 ～

持続可能な下水道事業を目指す将来像として、下水道ビジョンの**基本理念**と**基本方針**を下記に示します。

基本理念

未来へつなぐ 湯沢のきれいな水環境

基本方針

快適なくらしを支える下水道

安全なくらしを守る下水道

将来にわたり
持続する下水道

下水道ビジョン策定のスケジュール (令和5年度) について

年度	R5											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
上下水道懇談会			①		②					③		④
			第1回 (6/29) ○下水道ビジョンの策定について		第2回 (8/29) ○下水道現地視察 ○意見交換					第3回 (1/23) ○下水道事業の現状と課題、 下水道事業の課題整理、 基本理念と基本方針の設定 ○意見交換		第4回 ○下水道事業の実現 方策の検討、 ○意見交換